

東京電力に対する直接請求において就労不能損害額の算定から控除されて賠償の対象となっていなかった避難先（警戒区域からの避難）での平成23年9月から平成24年2月までの収入相当額につき、その賠償が認められた事例。

和解契約書

原子力損害賠償紛争解決センター平成〇〇年（東）第〇号事件（以下「本件」という。）について、申立人X（以下「申立人」という。）と被申立人東京電力株式会社（以下「被申立人」という。）は、次のとおり和解する。

第1 和解の範囲

申立人と被申立人は、本件に関し、下記の損害項目（下記の期間に限る。）について和解することとし、それ以外の点については、本和解の効力が及ばないことを相互に確認する。

記

損害項目	就労不能損害
期 間	自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日

第2 和解金額

被申立人は、申立人に対し、第1所定の損害項目（同項所定の期間に限る。）に対する和解金として、金1,069,200円の支払義務があることを認める。

第3 支払方法

（省略）

第4 清算条項

申立人及び被申立人は、第1に掲げる損害項目（当該期間に限り、その遅延損害金を含む。）については、本和解に定めるもののほか、申立人と被申立人との間には何らの債権債務がないことを相互に確認する。

第5 手続費用

本件に関する手続費用は、各自の負担とする。

本和解の成立を証するため、本和解契約書を2通作成し、申立人及び被申立人が署名又は記名押印の上、各1通をそれぞれ保有するものとする。また、被申立人は、本和解契約書の写し1通を原子力損害賠償紛争解決センターに交付する。

平成25年2月28日

（仲介委員 楯 香津美）